

平成 27 年度 編入学・学士入学試験

外国語科目・日本語

受験番号

HK

以下の全ての問題に答えなさい。

問題一 ( ) に入るもつとも適切な語を選び、カッコ内に記入しなさい。

(一) 語学は仕事のための ( ) にすぎないという意見があるが、私は賛成できない。

- 1 ツール                      2 ツアー                      3 メッセージ                      4 コミュニケーション

(二) この一〇年でこの地域の人口は徐々に ( ) 。

- 1 多い                      2 増えてきた                      3 存在している                      4 激増した

(三) お盆の時期は道路が非常に混雑する。( ) ( )、今回は鉄道で帰省することにした。

- 1 そこで                      2 すると                      3 とはいえ                      4 ただし

(四) 以前勤めていた会社の上司はとても人づかいの ( ) ( ) 人だった。

- 1 きびしい                      2 あらい                      3 からの                      4 しぶい

(五) 世間では高い評価を受けた映画だったが、私は ( ) ( ) 面白くなかった。

- 1 きつと                      2 なかなか                      3 いっそう                      4 たいして

問題二 ( ) に入るもつとも適切な語を選び、カッコ内に記入しなさい。

(一) 商品展開が多様な最近のコンビニエンスストアではネクタイ ( ) ( ) 売っている。

- 1 こそ                      2 まで                      3 ばかり                      4 だけ

(二) 貸してもらった本、読んだ ( ) ( ) 読んだのですが、難しくてよくわかりませんでした。

- 1 としては                      2 だけ                      3 ことは                      4 も

(三) この先の内容は先に会員登録を済ませて ( ) ( ) 読むことができませぬ。

- 1 ないわけには                      2 からでない                      3 につれて                      4 ないまでも

(四) 友人たちと食事に行くんですが、 ( ) ( ) おすすめのお店を教えてくださいませんか。

- 1 どこ                      2 どこで                      3 どこか                      4 どの

(五) 菅野さんの趣味は旅行に行つて写真を撮 ( ) ( ) 。

- 1 るのです                      2 るそうです                      3 ります                      4 ることです

【次のページに続く】

問題三

(一) に入るもつとも適切なひらがなをカッコ内に記入しなさい。なお、それぞれのカッコ内の文字数は1字か2字である。

(一) レポートを提出する直前に間違い ( ) ( ) 気づいたので、すぐに修正した。

(二) 駅前 ( ) ( ) 募金活動を行ったら、すぐに目標金額が集 ( ) ( ) た。

(三) 「有無」は「あるかないか」という意味で、「( ) ( )」と読む。

(四) ゼミの先輩 ( ) ( ) 買ってきて ( ) ( ) たお菓子をみんなで食べた。

(五) 誰の本 ( ) ( ) わからないと思ったが、裏に小さく名前が書い ( ) ( ) った。

(六) 論文やレポートは話し言葉では書かない。「飲んじゃだめ」ではなく、「飲ん ( ) ( ) らなければ」のよう書く。同様に、「何してんの？」ではなく「何をして ( ) ( ) のか。」と書く。

【次のページに続く】

問題四 問題文は、田端博邦『幸せになる資本主義』の一部分です。この問題文をよく読んでから、問一と問二に答えなさい。

働くこと（労働）は、個人にとって重要なことだ。それは、食べるための所得を得るためだけのものではなく、その個人の社会における存在の意味を与えるからである。

社会は、さまざまな仕事によって成り立っている。分業の社会である。そのような社会において、ある仕事をするには、社会的な意味のある仕事をする必要があり、働くことは、社会の支え手になることを意味する。社会的に意味のない（あるいは有害な）仕事もあるのではないか、という意見もあるかもしれない。たしかに、そのようなものもあるかもしれない。もし、そのようなものがあるとするならば、それをなくしていくことも、社会のあるいは人びとの役目である。ただ、そのような意味のない仕事はそう多くないだろう。ほとんどの仕事は、社会に役立つであり、それらが組み合わされることによって人びとの生活は成り立っているのである。みんなが働いているのでみんなが生活できる、というのは単純な真理だ。そのような仕事に就いて働くことは、その個人に社会における正当な位置を与えることになる。社会的なアイデンティティといってもよい。仕事は、そして仕事をする人びとは、お互いに尊重される、ということ、われわれが日常的に実感するところであろう。

それだけではない。仕事の場（職場）とそこでつながりのできる人間的な関係は、個人の社会的なつながりをつくりだし、仲間をつくりだす。人は、そこで、孤立した、孤独な個人から解放されるのである。うちの職場はそんなものではない、ひどいものだという人もいるだろう。人間関係には葛藤もあるし、つねに楽しいわけではないだろう。しかし、それほどの職場には、そこになんらかの問題があるかもしれない。働き方に関する倫理やルールがおそらく必要だ。しかし、ここで述べようとしているのは、職場というものが、本来的に、そのような可能性をもっている（そして、現実にもかなりの程度そのようである）ということである。

また、仕事を通じて、あるいは仕事のなかで人は学ぶことができる。個人のアイデンティティとしての仕事は、仕事をする本人のさまざまな意味における能力を鍛える。『プロ』

【次のページに続く】

とか「職業人」といわれるような独自の特徴が生まれるのである。それは、自己の能力を伸ばす、高めることによつて、自分自身の喜びをつくりだす。

さらに、そして最後に、働くことによつて、人は経済的に自立することができる。それは、精神的な自立と、したがつて個人の自由の基盤である。

働くことが、このような重要な意味をもつていとすれば、労働が可能な人には可能なかぎり働く場が見出されるような社会が望ましい。障害のある人も、高齢の人も、である。それぞれの人がそれぞれの力に応じて働くことが、その人の社会的なアイデンティティと自尊の念をたしかなものにするからである。「人の世話になつてゐる」状態は、どうしても本人の遠慮と自信（自己尊重）の喪失を生み出す。もちろん、「世話にならなければならぬ」と考へている場合には、その機会が広く開かれてゐることが望ましい。そして、そのためには、すべての人が、自己の意欲と必要に応じて学ぶ機会をもちうることを望ましい。社会のためにだけでなく、自己の成長、能力の発揮のために必要なのだ。今の日本のような、年齢別に輪切りをした半ば強制のように意識される大学教育のシステムは再考する余地が大いにありそうだ。30歳くらいで、森林警備官から医師に転身することも可能な社会が望ましいのではないだろうか。

失業は、働く人から社会的なつながりや社会的なアイデンティティを奪うという点で、非常に大きな害悪を個人に及ぼす。失業によつて生じる孤独は、好き好んで孤独を愛するのとはまったく別種の強いられた孤独であり、社会的な孤立である。所得の喪失は、肉体的な生存の基礎さえ脅かしかねない。自己の能力を鍛へることも、発揮することもできない、そのような場がないとすれば、それは人格的な基盤まで揺るがすだろう。

したがつて、失業はゼロの社会が望ましい。しかし、市場経済の社会では、失業の発生は避けられない。また、自発的に仕事を変えるために退職をすることも当然にありうる。なるべく失業を出さないような政策（完全雇用政策）を工夫することと、失業した場合に上述のような失業のもたらす害悪を最小限に抑えるような社会的な仕組みをつくりあげることが必要になる。失業は一般に、社会における労働力を有効に活用してゐないことを意味するので、社会的な損失でもある。しかし、社会が全体としてこのような努力をするとは、それ以上に、一人ひとりの個人がすべて、「個人として尊重される」（日本国憲法13条）ような社会になるために必要なのである。社会のために個人があるのではなく、個人のために、しかしもちろんすべての個人のために、社会があるという「近代」以来の考え方は、おそらく今日の多くの人が受け入れるところであろう。

【前のページの続き】

ILO (国際労働機関) の「すべての人にディーセント・ワークを (Decent Work for All)」という考え方がある。すべての人に、社会的に有意義(生産的)な、公正な労働条件のもとにおける完全雇用を、そして社会的な保障を、というものである。それはおそらく、現代の社会を、人間的なものにするもつとも根底的な基盤である。

(田端博邦「幸せになる資本主義」(朝日新聞出版  
二〇一〇年)より一部抜粋)

問一 AとDの文は、それぞれ問題文の趣旨とは違う点があります。どのような点が違っているのか、説明しなさい。

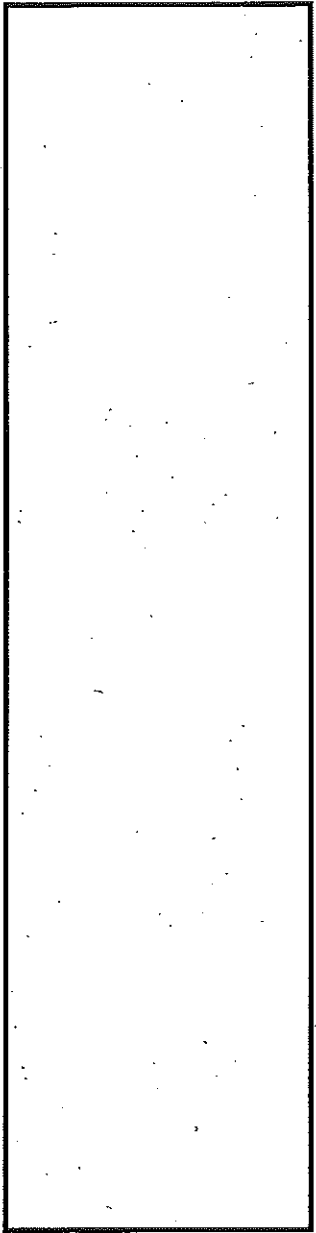
A ある仕事をするには、社会的な意味のある仕事をすることであり、社会的に意味のない仕事はない。

B 職場というものは、本来的に、人間関係の葛藤もあるので、つねに楽しいものではない可能性をもっている。

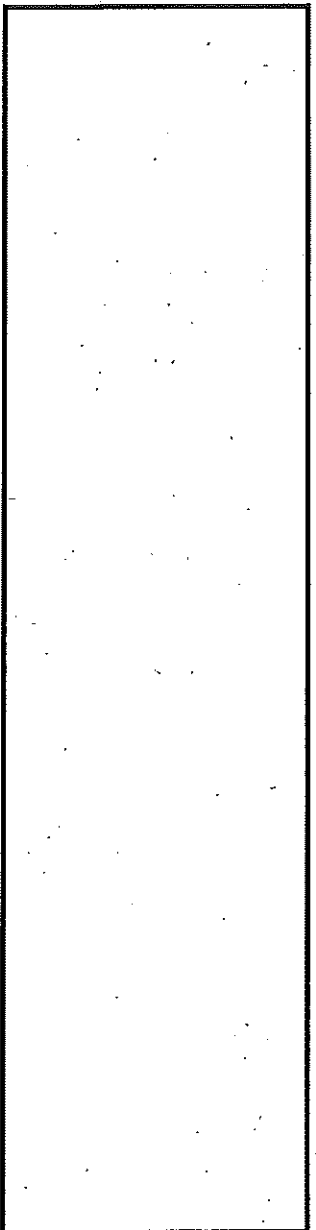
【次のページに続く】

【前のページの続き】

C 働くことは、重要な意味をもっているので、障害のある人も、高齢の人も、すべて働かなければならな  
s。



D 市場経済の社会では、失業の発生は避けられないから、完全雇用政策を工夫することはできない。



問二 問題文の要旨を、別紙原稿用紙に、三〇〇～四〇〇字でまとめなさい。

【以上】

